

人権なら

2017年5月1日

第77号

●ひと・まち・生き生き

NPOなら人権情報センター

地域内外の人々がふれあう

川西町梅戸で23回目の「ふれあい祭り」

第23回梅戸ふれあい祭りが4月2日、川西町梅戸のいぶき児童館であった
= 写真。200人を超える梅戸住民のほか、



その知り合いや友人、近隣の子どもたちが多数、詰めかけた。祭りは梅戸自治会とNPOなら人権情報センター川西支局が共催した。

午前9時、川西町の和太鼓クラブ「風姿花伝」と、今年新たに和太鼓教室(小学生)OBで結成したチーム「結」がオープニングを飾った=写真。参加者はにぎやかに繰り広げられる演奏を楽しんだ。

模擬店、ビンゴゲーム、オカリナ演奏を楽しむ

このふれあい祭りは、かつて他の地域の祭りで催された子ども相撲を遠くから眺めているだけだった体験から、梅戸の住民でなくとも、祭りに寄ってくる人たち全員を参加の対象としている。また、普段、地域外で生活している子どもや孫の世代も多数が参加する。

祭りには、模擬店が並んだ。老人クラブは焼きそばや、ジュース、ビールを販売。婦人会は「おでん」を販売。子ども会(保護者)は輪投げ。町内の障害者の保護者会コスモスの会は雑貨品などを出店。自治会・壮年会は「パンジーの花苗」を贈呈し、にぎわった。

午前10時半からは、体育館内でオカリナチーム「ポコアポコ」の演奏会。オカリナのやさしく癒される音色に、会場からは拍手が起こった。

続いて、川西支局が毎年、実施しているビンゴゲームと、くじ引きが始まった。大人気のビンゴゲームでは、大人も子どもも回転して出てくる玉の数字が伝えられると、自分の持つビンゴカードの数字を睨み、数字が合うと大歓声が沸き起こった。あちこちで無心な姿がみられた。



幸運の当選者には、1等が布団掃除機、2等がIH電磁調理器、3等が健康医療枕。その他、お菓子やマシュマロなどが手渡された。くじ引きでも、様々な商品などが当たり、大いに盛り上がった。参加した子どもたちには、自治会からお菓子セットが提供された。

5月23日の総会を協議

田原本町企業内人推協が第3回役員会

田原本町企業内人権教育推進協議会は3月29日、町庁舎で第3回役員会を開催。2017年度総会に向けた議案などについて協議した。

八幡満久会長のあいさつのあと、諸議案を協議。報告事項では、第2回役員会と、昨年11月実施の大阪・生野コリアンタウン現地研修の報告を確認した。

協議事項では、総会日程、提案議案、来ひん、記念講演、第1回役員会などを協議した。総会は5月23日に開催。記念講演は、講演テーマを昨年4月施行の「障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくり条例」に関する内容のものと、その講師として、社会福祉法人「ひまわりの家」の喜多学志・施設長に依頼することとした。

「山の辺の道」を訪ねて

健やか交流塾・学びの会がフィールドワーク

天理の村田正新親さんが主宰する「健やか交流塾・学びの会」のフィールドワークが3月28日にあった。

この日は日本最古の道、山の辺の道を訪ねての最終回。

JR三輪駅を出発し、大神神社(おおみ



わじんじゃ)ー綱越(つなこし)神社(=写真)ー三輪の町並みー恵比寿神社ー平等寺ー海柘榴市(つばいち)観音堂ー玉列(たまつら)神社ー近鉄大和朝倉駅と歩いた。井岡康時・天理大学講師が案内した。

三輪山は標高467.1m。低い山だが、美しい円錐形をしている。この三輪山をご神体とする大神神社は、神奈備(かんなび)の山として古くから信仰の対象になっている。山中には三カ所の磐座(いわくら)がある。中でも辺津磐座(へついわくら)がその中心。この禁足地からはおびただしい量の白玉が出土している。近世には、周辺の村々によって三輪郷(宮郷)が形成された。この中には被差別部落も含まれ、祭礼に深く関わっていたとの伝承が残っている。

江戸時代の面影を今も残す三輪の町並み

綱越神社は大神神社の摂社(せっしゃ。境内にあって、その祭神と縁故の深い神を祭った神社)で、祭神は祓戸大神(はらえどのおおかみ)。7月末の夏越の祓(なごしのはらい)では、社頭の鳥居に茅の輪(ちのわ)を取り付け、それをくぐり、無病息災を祈る「おんぱら祭り」があり、大勢の参拝者で賑わう。

三輪の町並みは、中世には、市場町として、また上街道の宿場町として、さらに大神神社の門前町として発達。中世以降、素麺の生産地として知られるようになる。町並みは江戸時代の面影を今も残す。近代に

は、行政官庁が置かれ、地域政治の中心になった。

この街並みを抜け、中世以来、栄えた三輪の市の神、恵比寿神社から平等寺へと進んだ。平等寺は現在、曹洞宗の寺院。社伝によると、聖徳太子が開基し、鎌倉時代初期の慶円により中興されたという。明治初年の神仏分離によって廃寺となり、1977年に平等寺と名乗り、現在に至る。

金屋(地名)の弥勒谷(みろくだに)に弥勒石龕(せきがん)仏(国重文)がある。中世の三輪には、鋳物を作る職人がいたと考えられ、史料に「三輪鍋座」「三輪鋳物師」などの言葉が残る。地名もこうした職業に由来したと思われる。

伊勢街道沿いに開けた慈恩寺の集落

古代の海柘榴市は金屋集落の北方にあったと考えられる。『日本書紀』の武烈天皇紀に「海柘榴市の巷」とあり、『万葉集』に

も詠まれている。海柘榴市観音堂には石仏2体が収まる。元亀2年(1571)、同3年の銘が認められ、戦国期の作



だとわかる。集落を抜け、初瀬川沿いに河川敷を東へ行くと、海柘榴市跡がある。歴史公園として整備され、園内には仏教伝来の碑(=写真)が建っている。

玉列神社の祭神は大神神社の末裔神と思われる玉列王子。玉列神社は三輪山の南山麓山裾に広がる慈恩寺郷の中心にある。慈恩寺(じおんじ。地名)は伊勢街道沿いの集落として開けた。鎌倉期以降、長谷寺詣でや、伊勢詣でが盛んになると、通行税を徴収するために慈恩寺関が設けられた。当初の街道は三輪山の山麓を通っていた。戦国時代末ごろ、初瀬川沿いに新道が開かれ、街道沿いに移住した人々によって集落が生まれた。慈恩寺集落南部に横大路(初瀬街道)と上街道の合流する追分があり、旅宿や茶屋などが設けられ、繁盛したという。

日韓市民共同の営みで実現を

天理・柳本飛行場跡の説明板再設置求め集会

天理・柳本飛行場跡の説明版再設置実現に向けた市民集会が4月7日、天理市かがやきプラザであり、パネルディスカッションが行われた＝写真。「…考える会」が主催した。



パネラーは、吉田智弥さん(「枝葉通信」発行人)、高野眞幸さん(奈良県での朝鮮人強制連行等にかかわる資料を発掘する会)、西辻雅代さん(天理市教員)、李明哲さん(イ・ミョン Chol、在日コリアン青年連合)。コーディネーターは川瀬俊治さん(考える会)。

吉田さんは「なぜ天理市長は撤去を強行することができたのか」「なぜ安倍政権は河野談話や村山談話の意味を否定することができたのか」と問いかけた。設置当時を振り返り、「無関心な人々の共謀」と「左翼政治主義運動論の弱点」、つまり、設置の必要性をめぐる、大きな議論がなかったことや、「要求」が実現すればそれでよし、としたことなどが問題だ、と指摘した。

朝鮮人労働者の存在が欠落した「天理市史」

高野さんは、1943年秋ごろから始まった工事は川の付け替えや、神社・寺・墓地・ため池・農地などの廃棄や移転を伴うもので、児童・生徒・学生、そして勤労動員も加わり、進められた。多くの朝鮮人労働者も働いていた。しかし、『天理市史』には、飛行場建設はあるが、朝鮮人労働者のことは一切記載されていない。高野さんは「市史」に記載の「T氏」の日記を発見。著書『戦争と奈良県一天理を中心に』(2016年刊)にまとめた。「日記」には、「44/9/22…今日は半島人の飯場より北に向かいて草刈」「44/10/24…一十月目に来て見るに、半島の人、なかなかよく働く。トロ運び、杭打ち、トロ線運び、などのとき半島の歌唄いながら

やる」などの記載がある、と指摘した。

西辻さんは、当時、教組青年部の活動として紙芝居「柳本のおじぞうさま」を作成。地域の「平和まつり」などで読み聞かせをしたこと、授業でも活用したこと、今の教育現場の「重たさ」などについて語った。

李さんは、現在、各地で起きている「追悼碑」(群馬・福岡・奈良)などへの攻撃・反発が過激化していることを指摘し、「歴史修正主義やヘイトスピーチ」をどのように考えるのか、と提起。現在、具体的な人や地域に根ざした「小さな物語」に焦点を当てる歴史編纂(地域史+個人史+家族史)、在日コリアン集住地域(猪飼野、東九条、長田、下関など)、戦争・植民地支配の爪痕が残る遺跡(大阪・岸和田、京都・ウトロ、奈良・屯鶴峯、柳本飛行場跡、広島、北九州)などを考えていて、「未来世代のための在日コリアン歴史ガイドブック」を今夏に出版予定、と話した。

過去に学び、今を生き、希望ある未来へ

川瀬さん(=写真)は「刺激的な提起や発言」に感謝を述べるとともに、2つの提言「過去に学び、今を生きる。そして希望ある未来へ」(NHKラジオ英語教師)と、「過去の問題を明らかにし、具体的にどういう問題があったのかを解明していくことは、今おかれている状況を歴史的に明らかにして、現状を改善していく力になる」(高里鈴



代さん。沖縄平和記念資料館の展示の在り方を批判した)を紹介。日韓市民共同の営みは「立場の共通性と相違性があることを認識しなければ…。簡単なものではない。元日本軍『慰安婦』サイバーのハルモニがたどりついた平和への願いが結晶化した『平和の碑』にしても、日韓で解釈が異なる」「政治的立場の相違を生む国家という『怪物』を超える共通の『財産』=民衆同士のスクラムにたどり着かねばならない」と話した。最後に、日韓市民共同の営みで「説明板再設置」を実現しようと呼びかけ、集会を閉めた。

「共謀罪」法案に反対し集会

「共謀罪」法案の撤回を求める市民集会が4月8日、県文化会館であった＝写真。主催は奈良弁護士会。

共謀罪対策本部の山口宣恭弁護士が基調報告。法案は「テロ防止」が目的ではないこと。すでに「テロ防止」の法対策は現行法で整備されていること。現行の「刑法、刑事訴訟法、日本国憲法」の根本原理に反し、基本的人権の保障をないがしろにするものであること、の3点を指摘し、「共謀罪」法案に強く反対すると語った。



民進・共産・社民・新社会各党代表の決意表明に続き、市民からも専業主婦、男性会社員が「共謀罪」反対を強く訴えた。



佐々木育子弁護士が「テロ等準備罪」法案の国会

編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ組織犯罪処罰法改正案が国会で審議中だ。政府は「テロ対策に必要」「オリンピックが開催できない」と言う。この法が成立すると、たとえば、沖縄の基地建設反対派は「組織的犯罪集団」と判断されそうだ。すでに先取りした不当逮捕も再三起きている。「一般の人は対象にならない」と言うが、一般の人とは政府などに従順な人、物言わぬ人のようだ。でも、原発再稼働や新基地建設など個別の政策に反対の人は多い。市民運動は容易に弾圧され、人権は著しく侵害されよう。声も上げられない。異議申し立てもできなくなる。まさに現代の治安維持法だ。

提出に反対する会長声明を読み上げ、参加者の大きな拍手で確認した。

集会のあと、「共謀罪法案」反対を訴え、市内をパレード＝写真。

あいにくの天気の中、「監視社会をつくらせない!」「息苦しい



社会は嫌だ!」「共謀罪法案反対!」などと、「ひまわり」のメンバーたちも元気よくコールを繰り返した。

「子どもの居場所」活動

ひまわり「子どもの居場所」活動が3月30日、上但馬「解放会館」(現三宅町人権センター)で

あった。小学生の低学年から中学生、4月から高校生になる子ども



たちが集まった。学童保育クラブのスタッフや、三宅小学校の先生も参加。大勢の人たちでにぎやかになった。

みんなで肉(豚)まん・あんまんを作った。玉ねぎを刻み、豚ミンチと混ぜ、薄力粉・ベーキングパウダーを混ぜ、あんを包み、蒸しあげる。いろいろ



な肉まん・あんまんができた。デザートは果物たっぷりのフルーチェ。どれも美味しく、子どもたちに笑顔があふれた。午後は、ドッジボールを楽しんだ。

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター
〒636-0223
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833
E-mail:info@nponara.or.jp
http://www.nponara.or.jp/